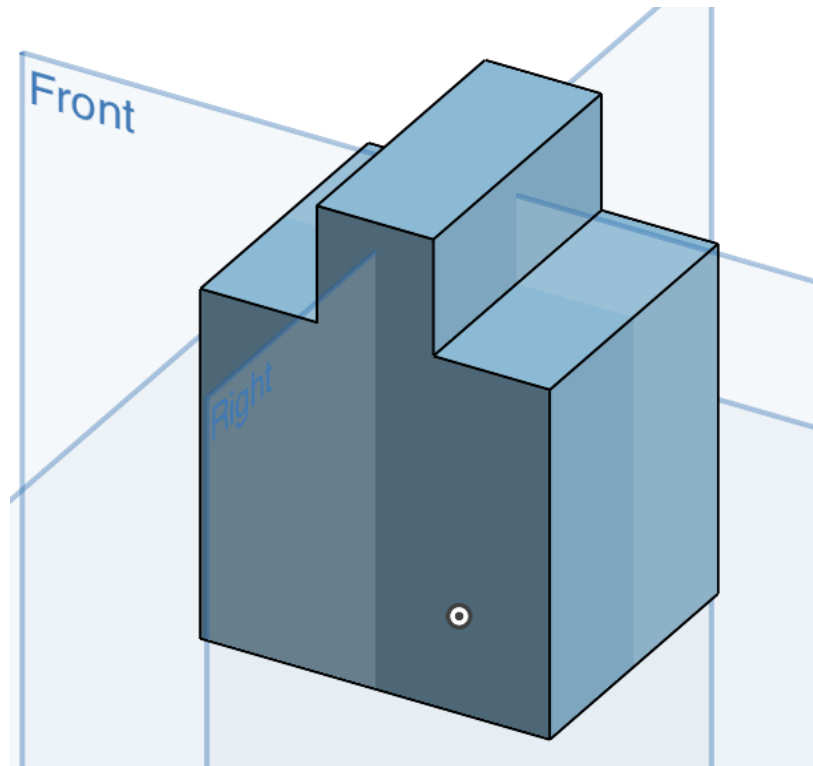


# ipad用Onshapeの使い方 ブロックを作ろう

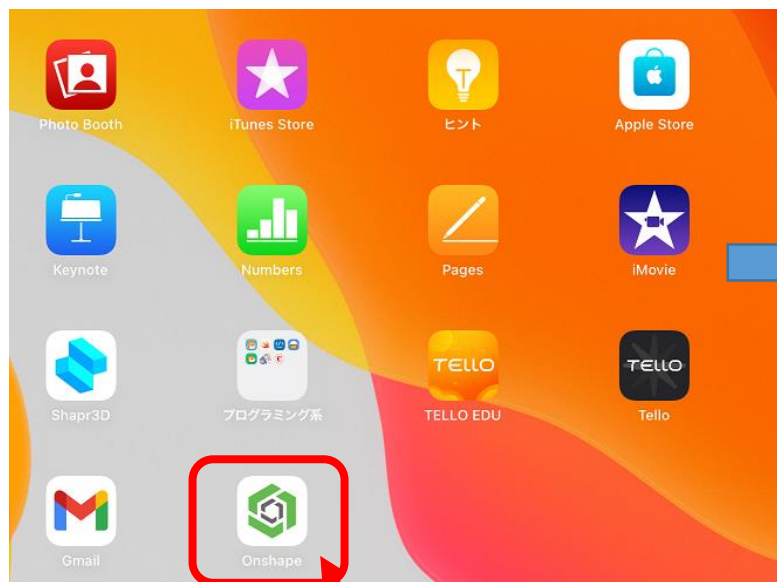


作図作業はすべて  
画面を指先でタッ  
プすることで行い  
ます

旭川高専 kashikashi

2021.5.10

# ipad用Onshapeにサインインしましょう



ipadのデスクトップのOnshapeアイコンをタップする



サインイン画面になるので登録したメールアドレスを入力しサインインする

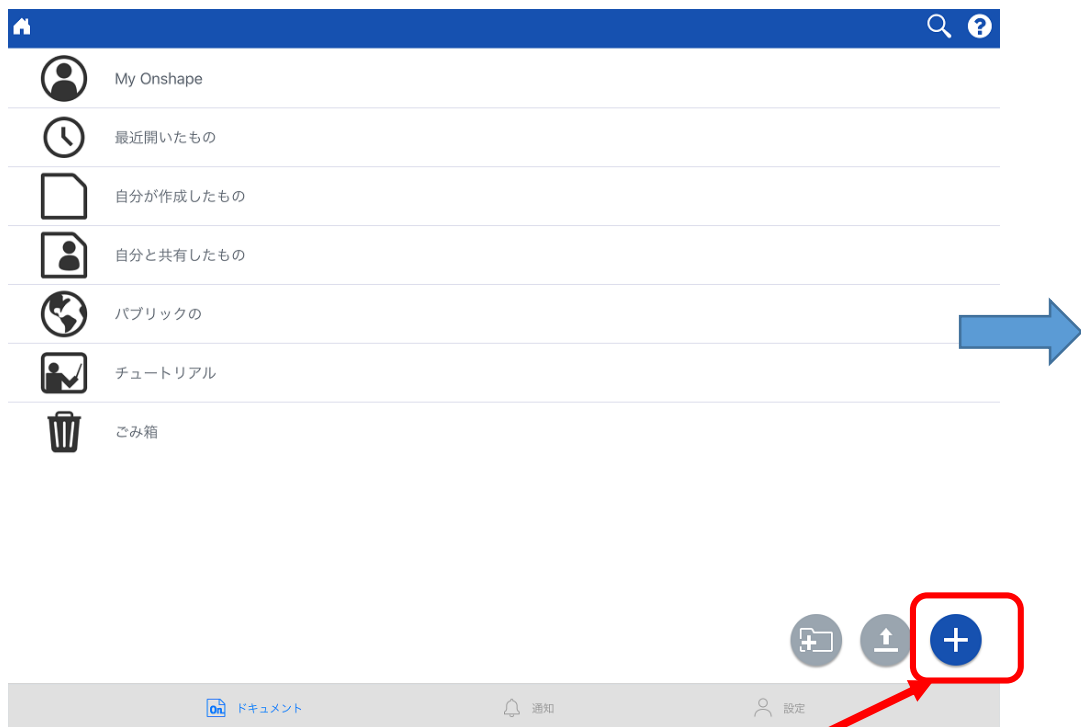


パスワードを入力しサインインする

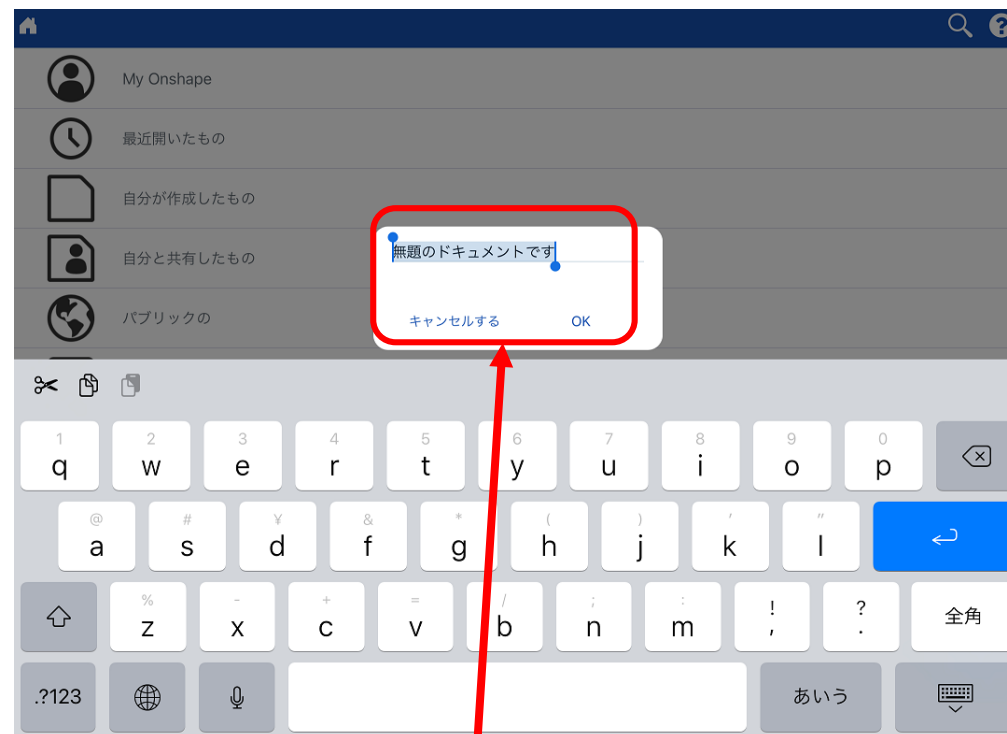


• [Start Using Onshape]を押して始めましょう

# ipad用Onshapeでブロックを作りましょう

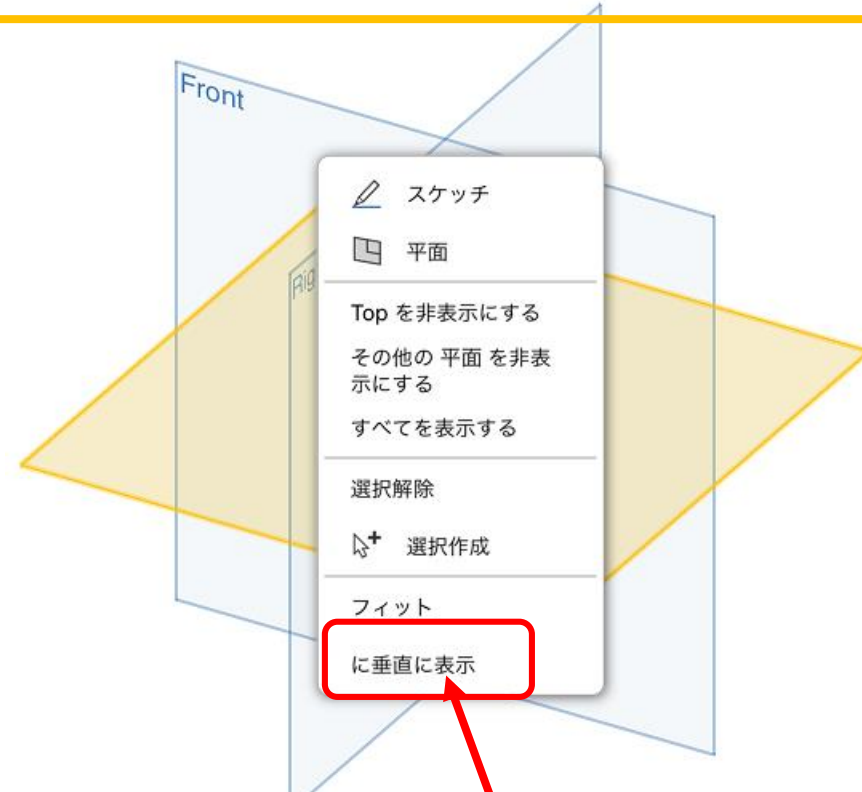
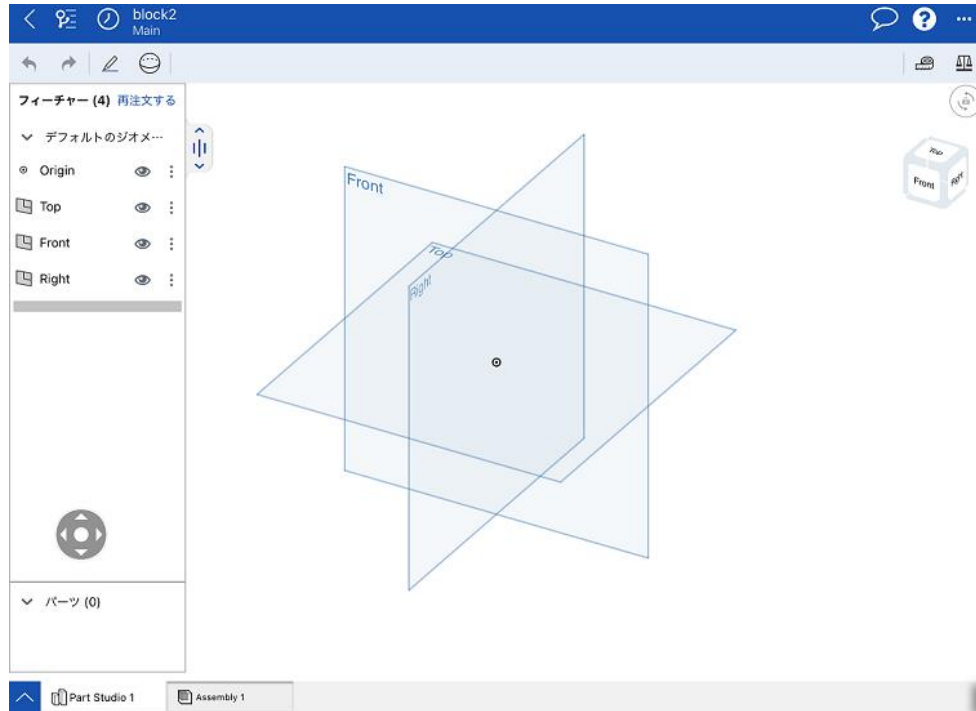


- 上の画面になるので [+] を押してドキュメントを新規作成します
- ドキュメントとは作成する3Dモデルを含むファイルのことです
- ドキュメントはクラウド上に保存されます



- ドキュメント名を入力して[OK]を押します
- 例えば[block2]というドキュメント名にします

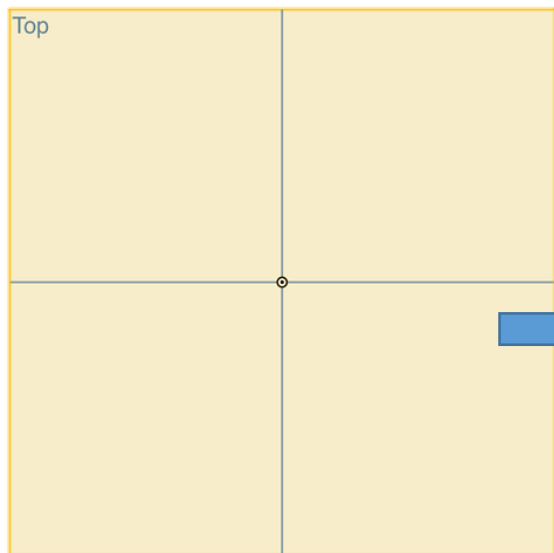
# ipad用Onshapeでブロックを作りましょう



- Windows PCと同じワークスペースが現れます
- ipadでの作図作業はすべて画面を指先でタップすることにより行います（マウス、アップルペンはいりません）
- そのため操作方法がマウスを使うwindows PCとは少し異なります

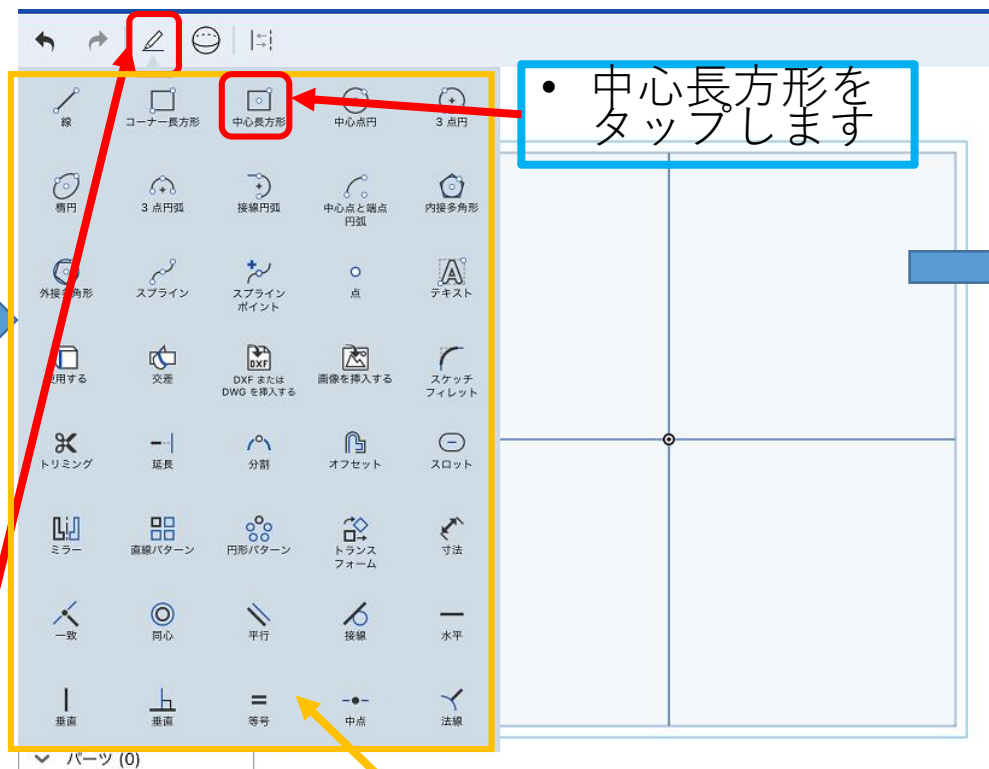
- [Top]。(平面図) で作業するとき、[Top]面を指先でタップして選択します。選択されると面がオレンジ色になります。
- [Top]面を真正面から見たいので、選択した[Top]面を「人差し指と中指で同時にタップ」します
- すると図のウィンドウが現れるので「に垂直に表示」をタップします

# ipad用Onshapeでブロックを作ります

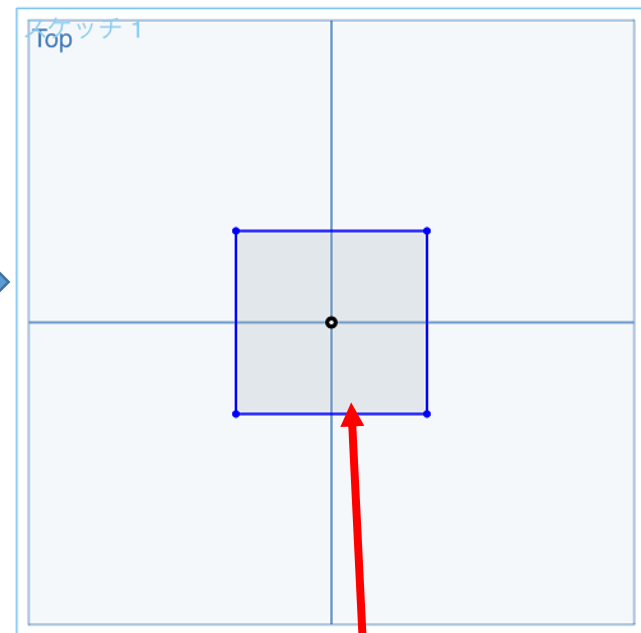


- 上図のように[Top]面が真正面になります
- 作図しやすいですね

• 鉛筆マークをタップします

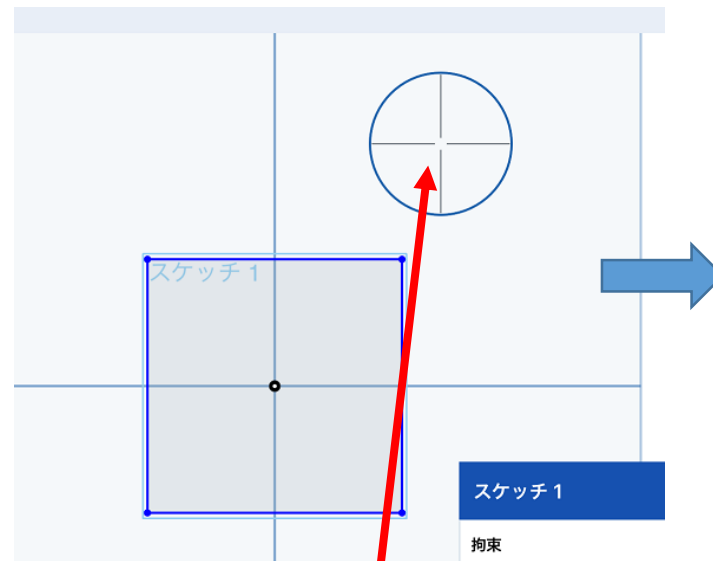
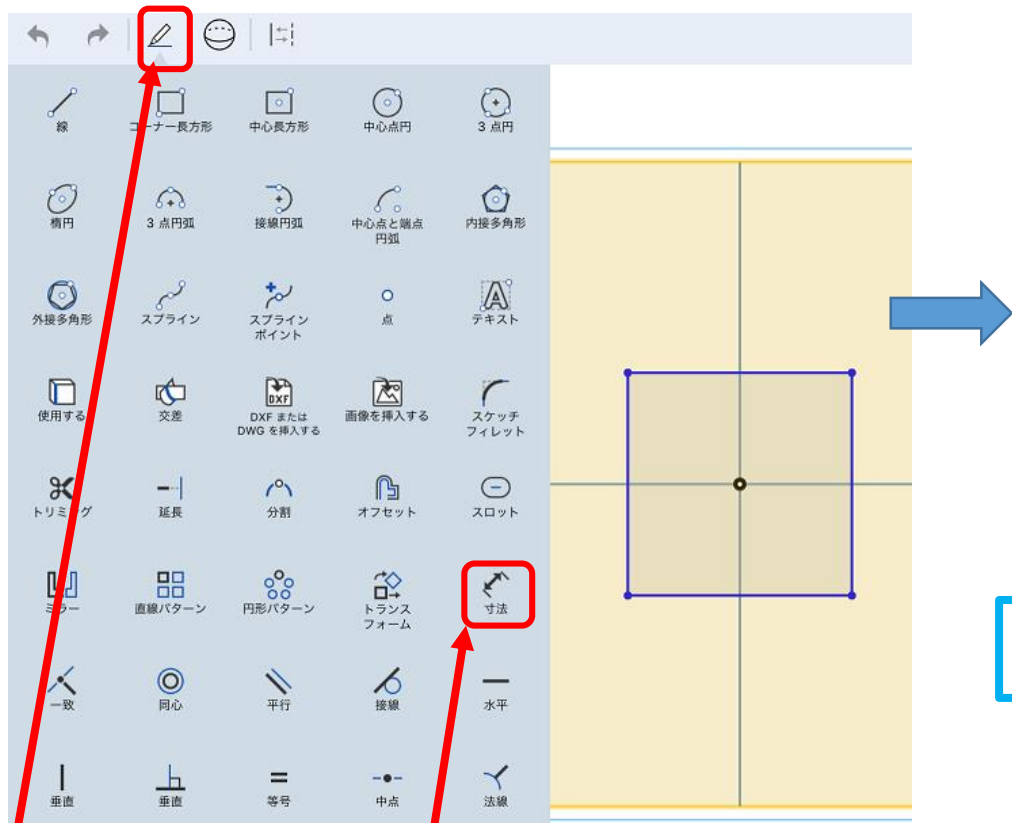


- スケッチツールウィンドウが開きます
- Windows PCですとスケッチツールバーが現れますが、ipadではウィンドウです

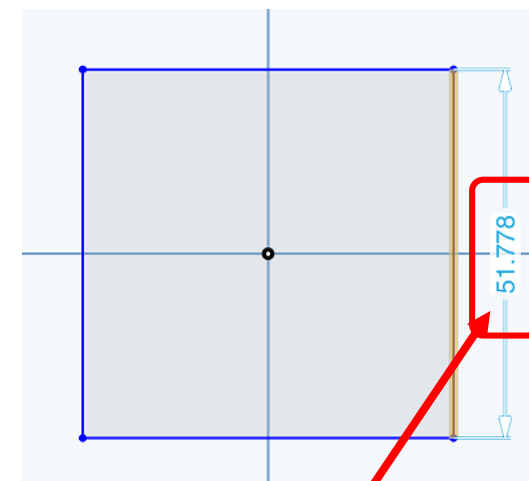


- 画面にタッチ(指を画面から離さないこと)すると長方形の中心点(+マーク)が現れるので、原点まで指を滑らせ中心点を原点に移動します
- 指を画面から離してから、もう一度タップすると長方形が現れるので指を滑らせて適当な大きさの長方形にしてから指を離します

# ipad用Onshapeでブロックを作りましょう



- 画面を長押しすると円形ポイントが現れる

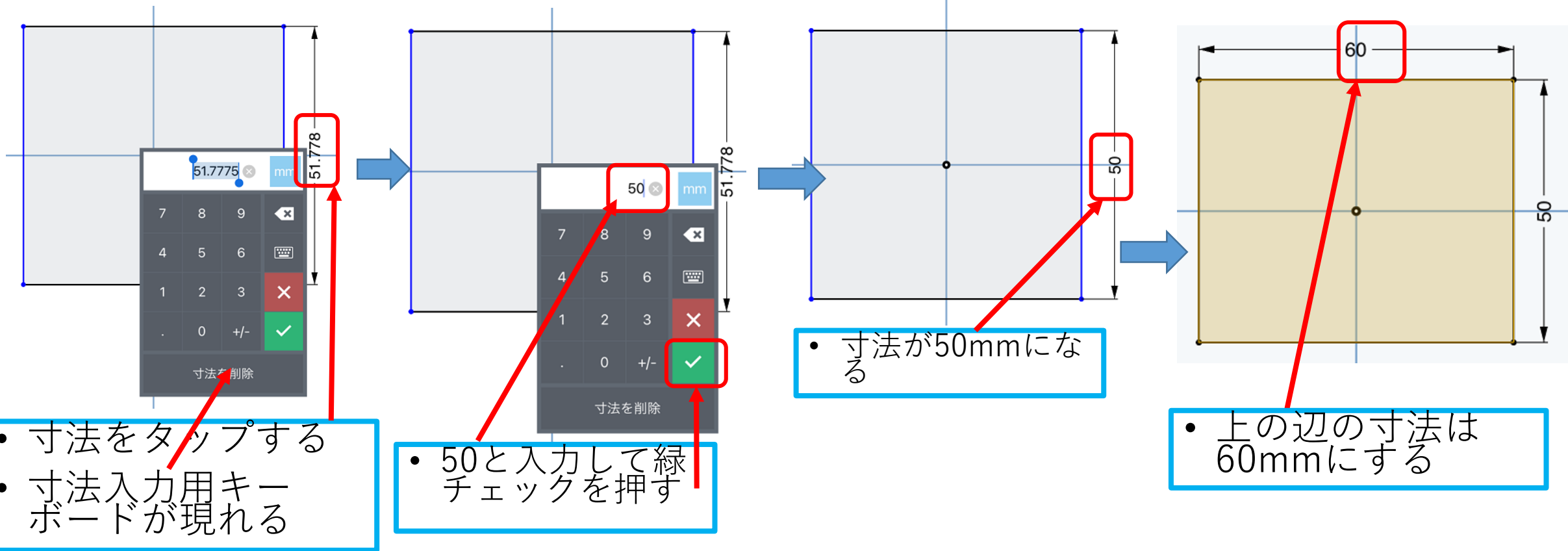


- 円形ポイントを寸法変更したい辺上に移動すると、辺の寸法が現れる

- 鉛筆マークを押します
- スケッチツールウィンドウが開きます
- 寸法を選びます

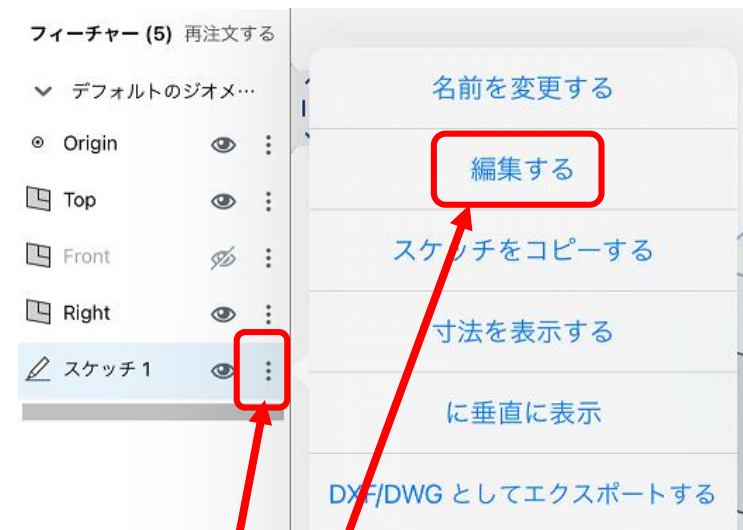
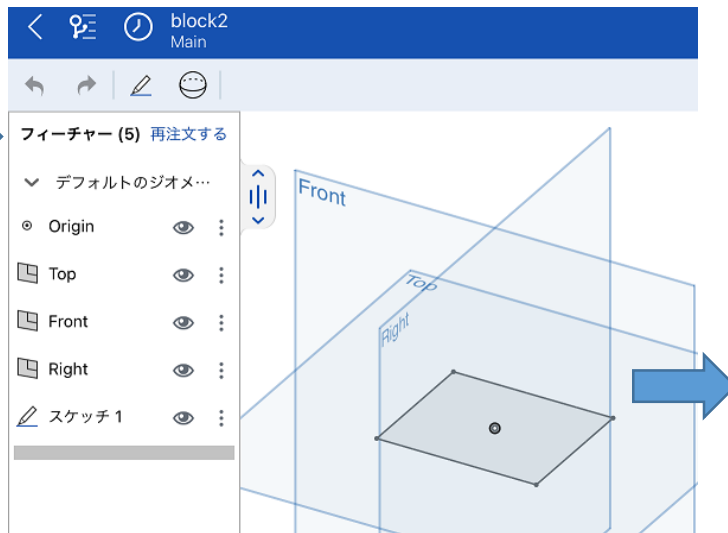
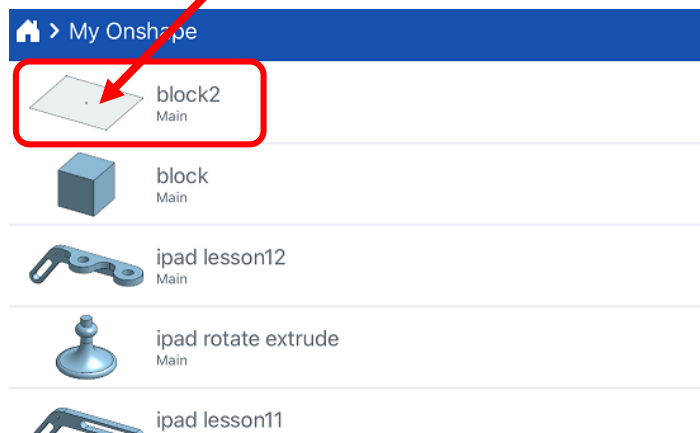
- 中心長方形を選びます

# ipad用Onshapeでブロックを作りました



# ipad用Onshapeでブロックを作りました

- 時々、Onshapeの作業しないでそのまましているとipadがロックされて画面が真っ黒になる
- その時はまたパスコードをいれてロックを解除すると[My Onshape]が現れる
- 作業していたドキュメント[block2]をタップします

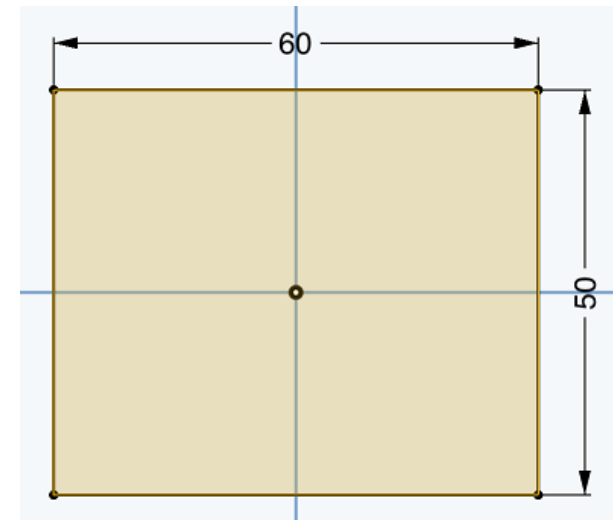
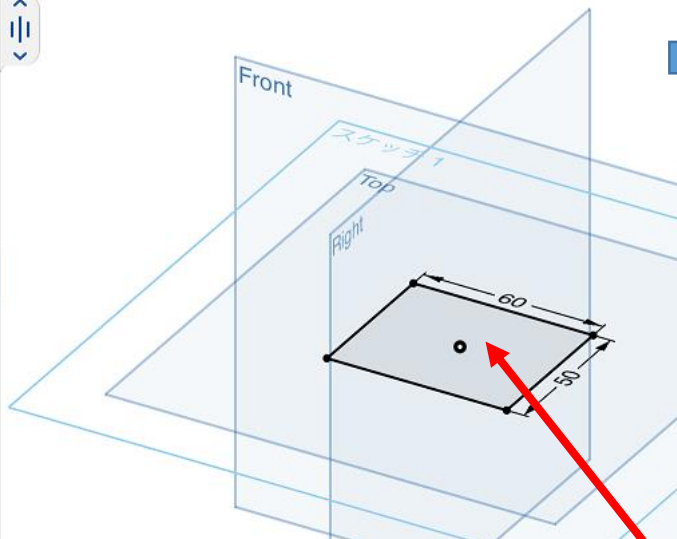


- [block2]のワークスペースが現れます

- 「スケッチ1」の右の3つの点をタップする
- 選択ウィンドウが現れるので「編集する」をタップする



# ipad用Onshapeでブロックを作りました

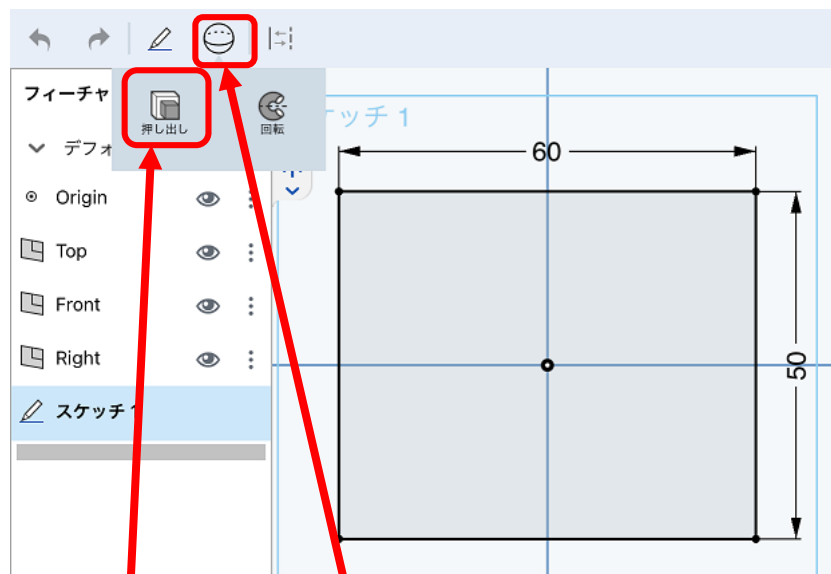


- さきほどの「スケッチ1」を続けて編集できるようになる

- 50x60の正方形をタップすると選択されてオレンジ色になる
- オレンジ色になった正方形を中指、人差し指2本で同時にタップする
- ウィンドウが現れるので「に垂直に表示」を押す

- 50x60の正方形が真正面に見えて実形になるので作業しやすい

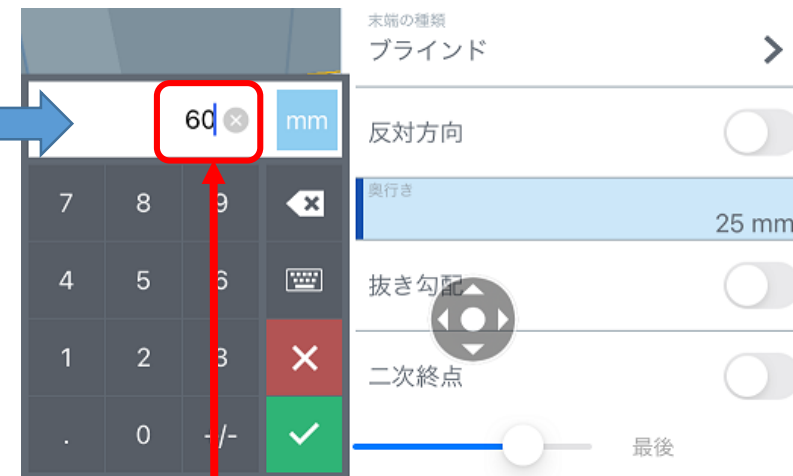
# ipad用Onshapeでブロックを作りました



- フィーチャーツールをタップする
- 押し出しをタップする
- 画面にタッチしながら指を動かすとブロックが傾くので押し出しの様子が分かりやすいです



- 押し出しのプロパティが現れるので「奥行き」をタップする

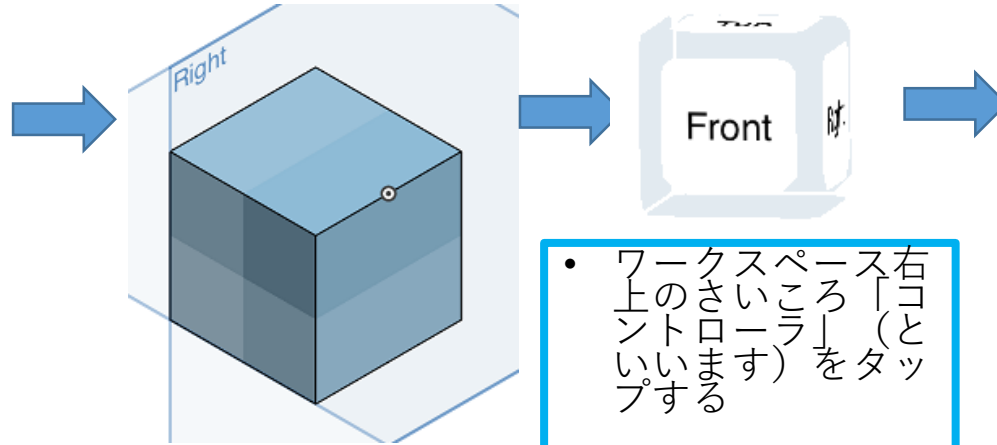


- キーボードが現れるので60と入力し奥行きを60mmにする

# ipad用Onshapeでブロックを作りました



- 奥行(高さ)が60mmになる



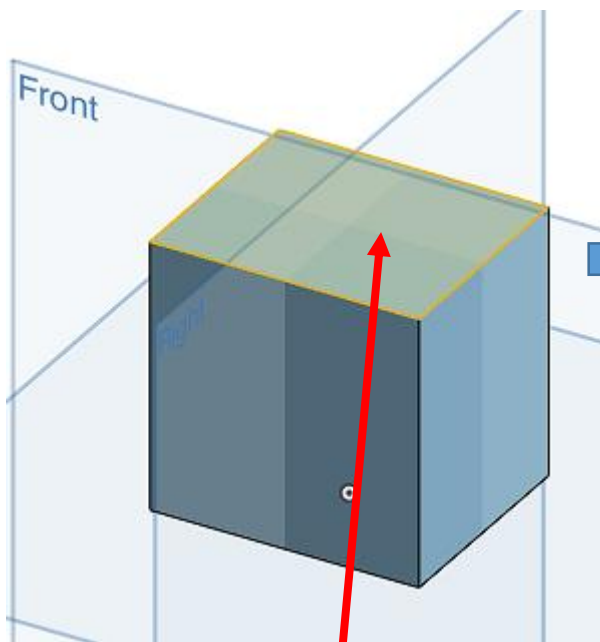
- ワークスペース右側の「このビューをタップする」をクリックする

- これでモデル(ブロック)が完成です
- 上図は奥行を見せるためにアイソメトリックビューにしている
- アイソメトリックビューに切り替える方法を右に示す

- 右のリストが現れるので「アイソメトリック」を選ぶ
- するとアイソメトリックビューになる



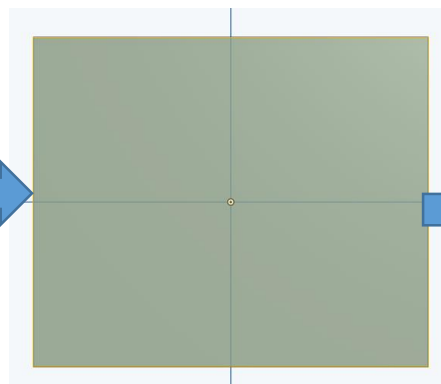
# ipad用Onshapeでブロックを作ります



- 上面をタップする
- 選択されると面がオレンジ色になる
- この面を人差し指、中指で同時にタップする



- 上のリストが現れるので「面に垂直に表示」を選ぶ



- 上面が真正面から見えるようになった

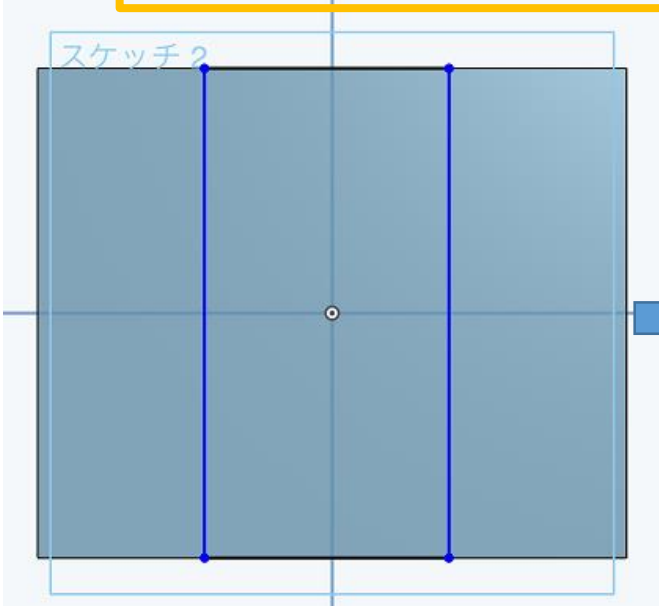


- 鉛筆マークを選ぶ

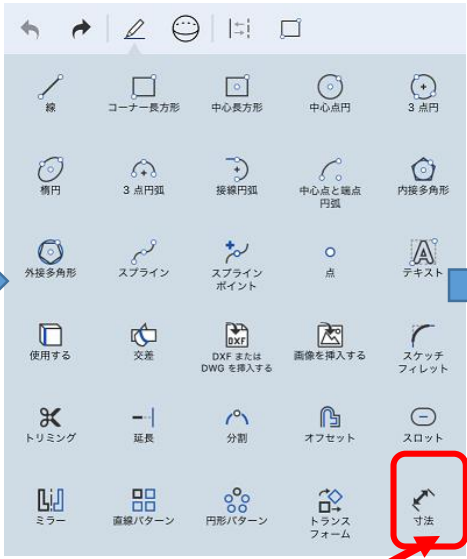


- スケッチウィンドウが現れるので「コーナー長方形」を選ぶ

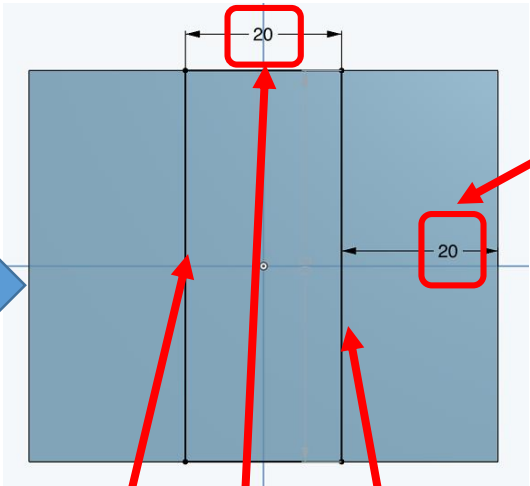
# ipad用Onshapeでブロックを作ります



- ワークスペースをタッチすると十字のポインタが現れるのでドラッグして上辺に移動すると上辺がオレンジ色になる
- これはポインタが上辺の位置にいることを示す
- 一度指を離し、もう一度画面にタッチして、今度は下辺がオレンジ色になる



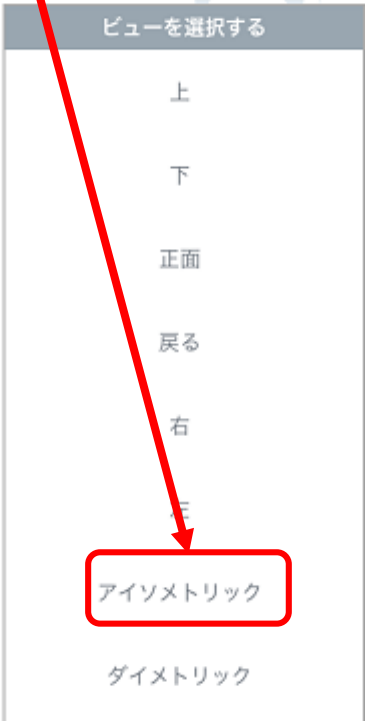
- スケッチウィンドウから「寸法」を選ぶ



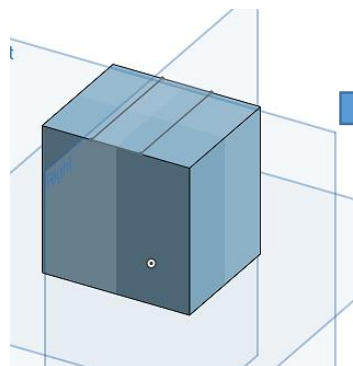
- ワークスペースをタッチすると寸法ポインタが現れるのでドラッグして移動すると寸法が現れる。
- またワークスペースをタッチして対向する辺にポインタを移動すると寸法が現れる。
- すると2辺の間の距離が現れるので寸法変更キーボードで20mmにする

- 同様にこの間隔も20mmにする

- ワークスペース右のコントローラ(サイコロ)をタップすると「アイソメトリック」をタップする



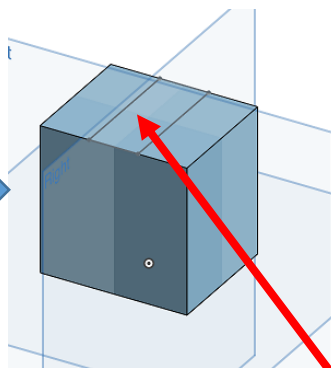
# ipad用Onshapeでブロックを作ります



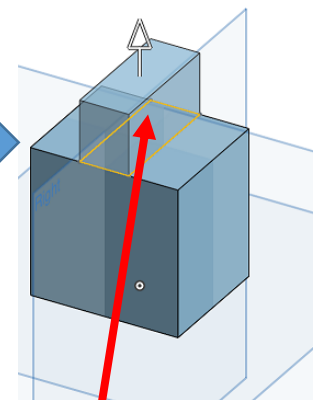
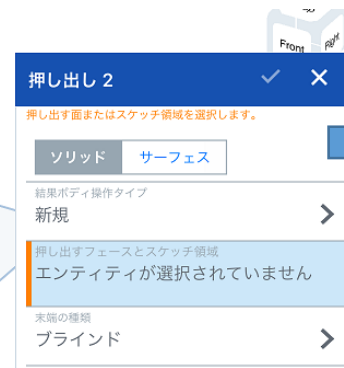
- アイソメトリックビューになりました



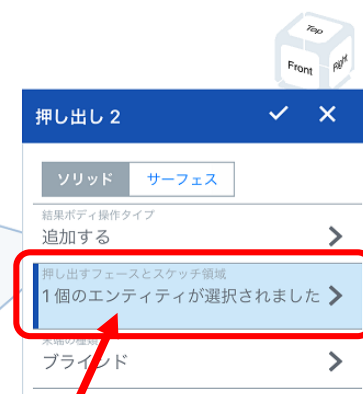
- フィーチャをタップします
- フィーチャの「押し出し」をタップ



- 押し出しウィンドウが現れる
- 「エンティティが選択されています」と表示された長方形部分をタップして選択



- タップした長方形内がオレンジ色になって選択される
- 選択した長方形が押し出される
- 「1個のエンティティが選択されました」と表示される



# ipad用Onshapeでブロックを作りました

ソリッド サーフেস

結果ボディ操作タイプ  
追加する >

押し出すフェースとスケッチ領域  
1個のエンティティが選択されました >

末端の種類  
ブラインド >

反対方向

奥行き 25 mm

抜き勾配

二次終点

すべてとマージする

マージスコープ  
1個のエンティティが選択されました >

押し出し 2 ✓

ソリッド サーフেস

結果ボディ操作タイプ  
追加する >

押し出すフェースとスケッチ領域  
1個のエンティティが選択されました >

末端の種類  
ブラインド >

反対方向

奥行き 20 mm

Front

- 「奥行き」をタップするとキーボードが現れるので20と入力する
- 緑チェックタップする

- 「奥行き」が20mmになる
- 「チェック」をタップする

- 完成です